

2021年6月

日本橋の歴史と変遷を表現した、大型ステンドグラスの
パブリックアートを設置！

日本を代表する画家 山口晃氏が原画・制作監修

にほんばしみなみづめせいきょうのず
「日本橋南詰盛況乃圖」
2021年7月1日(木) 公開



「日本橋南詰盛況乃圖」原画

撮影:宮島径 ©YAMAGUCHI Akira, Courtesy of Mizuma Art Gallery

- 題名:日本橋南詰盛況乃圖
- 原画・制作監修: 山口晃 氏
- 設置場所:東京メトロ銀座線「日本橋駅」B1 出口付近
- 規模・仕様:縦約2.1m×横約6m、LED内蔵のステンドグラス
- 協賛:株式会社高島屋
- ステンドグラス製作:クレーレ熱海ゆがわら工房
- 企画・制作:公益財団法人 日本交通文化協会

株式会社高島屋(本社:大阪市中央区、代表取締役社長:村田善郎)は、東京メトロ銀座線日本橋駅のリニューアルに伴い、大型ステンドグラスのパブリックアート「日本橋南詰盛況乃圖」を東京メトロへ寄贈し、日本橋駅B1出口付近(公共空間)にて2021年7月1日(木)より公開いたします。

当作品では、商業の街として発展を遂げてきた日本橋南詰の街並みが、「江戸」から「現代」までの時空を混在させて描かれています。江戸時代の屋敷や木造の日本橋、首都高速道路に高層ビル群など、

それぞれの時代の象徴的な建物が細部に渡り描写され、当時の様子がうかがえる所もあれば時代による変化を感じられる所もあります。当作品を通じて日本橋の歴史に想いを馳せたり、未来の良き街並みを想像したりするなど、様々な視点で楽しんでいただけることを願って制作いたしました。

原画・制作監修を務めたのは、日本の伝統的絵画の様式を用い、人物や建築物などを緻密に描き込む作風で知られる画家の山口晃氏。約3年もの時間をかけて描き下ろされた原画は、日本橋南詰の変遷を凝縮して表現しており、まるで過去と現代を行き来しながら旅をするように街を眺めることができます。また、山口氏のユーモアあふれる仕掛けが所々に散りばめられています。

この精緻で独創的な世界観をステンドグラス作品として表現するにあたり、使用したほぼ全てのガラスピースに専用の絵具で描画し焼き付ける「絵付け」を施しました。場所によっては太さ 1mm にも満たない線を描いたり、15 回も焼き重ねて色を出したりした箇所もあります。作品は約75種類・1182ピースのガラスで構成され、山口氏による徹底的な監修のもと、「クレーレ熱海ゆがわら工房」の職人6人が約1年をかけて製作いたしました。

■作家プロフィール

山口 晃 (やまぐち あきら)



1969 東京都生まれ、群馬県桐生市に育つ

1994 東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業

1996 東京芸術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画)修士課程
修了

受賞歴:

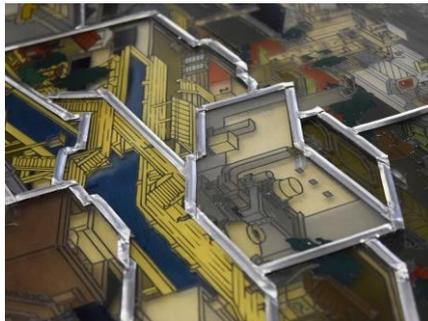
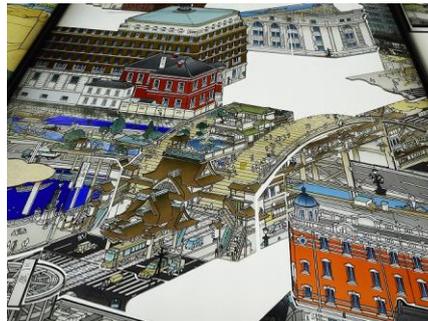
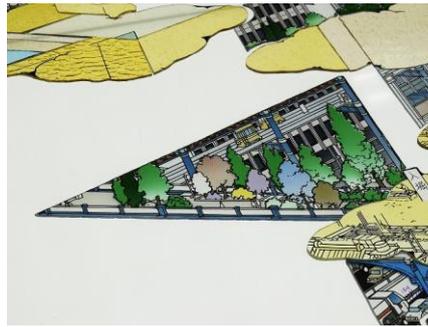
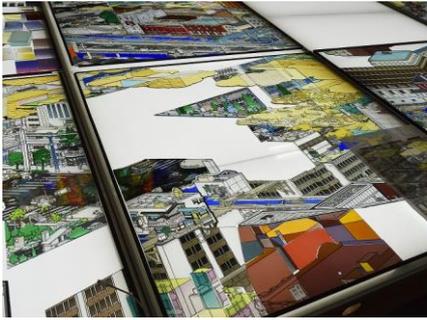
2001 第4回岡本太郎記念現代芸術大賞 優秀賞

2013 自著『ヘンな日本美術史』(祥伝社)にて第12回小林秀雄賞

2017 桐生市初の芸術大使に就任

日本の伝統的絵画の様式を用い、油絵という技法を使って描かれる作風が特徴。都市鳥瞰図・合戦図などの絵画のみならず立体、漫画、インスタレーションなど表現方法は多岐にわたる。成田国際空港のパブリックアート、富士山世界遺産センターシンボル絵画を手がける一方、新聞小説や書籍の挿画・装画など幅広い制作活動を展開。2021年7月6日から11月7日までZENBI-鍵善良房-(京都)にて個展開催予定。

参考資料:ステンドグラス工房製作風景



ステンドグラス製作風景(クレーレ熱海ゆがわら工房)

以上